



参加の入り口を広げることで、 一步を踏み出す 応援をしていきたい

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 事務局長
喜田 亮子 氏



— 喜田さんの経歴と現在活動されている団体について教えてください。

大学卒業後、公益財団法人トヨタ財団に約20年間勤務し、助成プログラムの企画・立案・運営を行い、後半10年間は国内の地域社会に対する助成プログラムを担当していました。

そんな中、町田市が中間支援組織を立ち上げることを知りました。私の学生時代を過ごした地域であり、現在の住居も近くで、かねてより地域密着の現場に近い仕事に携わりたいという気持ちもあったので、2019年の設立と同時に現在の一般財団法人町田市地域活動サポートオフィスで働くことになりました。

当組織の特徴としては、“箱：施設を持たないソフト支援に特化した中間支援”組織ということです。施設管理とセットとしての中間支援組織とは異なり、個人と組織、個人と団体間のコーディネートなどソフト面に特化した新

しいカタチの中間支援に挑戦しています。

— 設立から5年の道のりで、どんな取組をされ、どんな課題や発見がありましたか。

設立時は、物理的に施設がないということで存在を知ってもらうことが一番の課題でした。始めは、市内のNPOや様々な団体に直接訪問し、サポートオフィスの紹介とニーズの把握に尽力しました。

そして、徐々に活動が軌道に乗ってきた2年目に新型コロナウイルス感染症が拡大。この年から事務局を受託することになった「市民協働フェスティバルまちカフェ！」を開催するか否か、いかに運営するかという課題に直面しました。

多くの方と議論し模索し、市民活動の火を消さないために、何らかの形で開催しようということで、オンライン等を活用して開催しました。

オンラインでの開催により子育て中の方や、学生さんなど新たな層との繋がりや構築や、オンラインイベントのやり方について相談を受けることが多くなりました。

— 活動において心がけていること、今後やっていきたいと考えていることを教えてください。

心がけていることは、“参加の入り口を広げる”ということです。

忙しく、なかなかしっかりと団体に加入することは難しいとか、地域で少しでも行動し繋がりを持ちたいという方が多くいらっしゃいます。

そういう方に、「ワンデイおうえん隊」という形で、負担が少ない形で1日のできる活動プログラムを設けています。実際にみんなで一緒にアクションすると距離がぐっと近づき、それが繋がりを生みます。

最近、基金も開設しました。時間や体力の制約で実際に活動するのが難しくても、寄付という形で自分たちの地域を応援できる受け皿として、これから育てていきたいと思っています。

一緒に考え、やりたいことの言語化をお手伝いし、参加の入り口を広げることで、まずは一回やってみようというきっかけを作っていきたいです。

[聞き手：つな環編集部]



主催講座「プチ講座市民活動の資金と資源のはなし」の様子

喜田 亮子 (きだりょうこ)

国内外での様々な助成プログラムの研究や活動支援の経験を経て、2019年から町田市地域活動サポートオフィスの職員へ。環境、福祉、子育て、文化等の地域活動を様々な形で応援。これまでの全国の素敵な人たちとの出会いが財産。